

令和6年用さくらんぼ病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用 回数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴									
① 発 芽 直 前 ま で		1. 水 (98ℓ)				1. 石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を散布する場合は、本防除の10日以上前に実施する。 発芽前、ハーベストオイル50倍に石灰硫黄合剤10倍を加用するときは、水にハーベストオイルを加え、十分攪拌後に石灰硫黄合剤を加え攪拌し速やかに散布する。 2. ハーベストオイルに替えてスプレーオイル50倍(発芽前、-)を使用してもよい。 防霜対策資材 <table border="1"> <tr> <th>散布時期</th> <th>資材名及び濃度 (100L 当たり液量)</th> <th>使用時期</th> </tr> <tr> <td>発芽前～ 展葉期</td> <td>霜ガード 50倍 (2kg)</td> <td>・発芽前から展葉期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。 ・正午～午後3時までの気温の高い時間帯で散布を行いましょう。 ※-2℃程度の低温への効果が認められます。</td> </tr> <tr> <td>開花直前～ 満開期</td> <td>アイスバリア 333倍 (300ml)</td> <td>・開花直前から満開期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。</td> </tr> </table>	散布時期	資材名及び濃度 (100L 当たり液量)	使用時期	発芽前～ 展葉期	霜ガード 50倍 (2kg)	・発芽前から展葉期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。 ・正午～午後3時までの気温の高い時間帯で散布を行いましょう。 ※-2℃程度の低温への効果が認められます。	開花直前～ 満開期	アイスバリア 333倍 (300ml)	・開花直前から満開期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	散布時期	資材名及び濃度 (100L 当たり液量)	使用時期													
	発芽前～ 展葉期	霜ガード 50倍 (2kg)	・発芽前から展葉期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。 ・正午～午後3時までの気温の高い時間帯で散布を行いましょう。 ※-2℃程度の低温への効果が認められます。													
開花直前～ 満開期	アイスバリア 333倍 (300ml)	・開花直前から満開期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。														
カイガラムシ類幼虫	2. アプロードフロアブル 1,500倍(66ml)	7 日 前 ま	2 回以内	300～ 400ℓ												
カイガラムシ類 (ハダニ類)	3. ハーベストオイル 50倍(2ℓ)	発 芽 前	-													
(風せん状) ②開花1日前	灰 星 病 炭 所 病 幼 果 菌 核 病	1. トレノックスフロアブル 500倍(200ml)	21 日 前 ま	5 回以内	400ℓ	1. ハマキムシ類が多い園では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ									
③満開3日後	灰 星 病 幼 果 菌 核 病	1. オーシャインフロアブル 3,000倍(33ml)	前日まで	5 回以内	500ℓ	1. ハマキムシが多い園では、バイオマックスDF2,000倍(発生初期但し、前日まで、-)を加用してもよい。 2. バイカルティ1,000倍を加用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ									
	炭 所 病 褐色せん孔病	2. オーソサイド水和剤80 800倍(125g)	3 日 前 ま	5 回以内												
		殺虫剤、除草剤の制限 訪花昆虫を保護するため、4月下旬(マメコバチ等活動期)からミツバチ巣箱撤去時期まで殺虫剤、除草剤の散布はしない。														
④ 箱 満 撤 去 後		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)				1. コアオカスミカメの発生が多い園では、ウララDF2,000倍(前日まで、2回以内)を散布する。 2. コスカシバが多い園地では、スカシバコンLを100本/10a設置する。 3. ダイアジノン水和剤34(丸)に替えてアグロスリン水和剤(丸)1,000倍(3日前まで、2回以内)を使用してもよい。 4. バイカルティ1,000倍を加用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ									
	灰 星 病	2. パスワード顆粒水和剤 1,500倍(66g)	前日まで	2 回以内	500ℓ											
	炭 所 病 褐色せん孔病	3. オーソサイド水和剤80 800倍(125g)	3 日 前 ま	5 回以内												
	ハマキムシ類	4. ダイアジノン水和剤34(丸) 1,000倍(100g)	14 日 前 ま	2 回以内												
⑤ 5 月 下 旬	灰 星 病 褐色せん孔病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50ml)	前日まで	3 回以内	500ℓ	1. ハマキムシ類が多い園では、ハマキコンNを150本/10a設置する。 2. バイカルティ1,000倍を加用してもよい。その際、リン酸の含まれる葉面散布剤は使用しない。 3. ダニオーテフロアブルに替えてダニコンダフロアブル2,000倍(前日まで、1回)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ									
	カイガラムシ類 オウトウショウジョウバエ	2. モスピラン顆粒水溶剤(丸) 2,000倍(50g)	前日まで	1 回												
5 月 下 旬 5 6 月 上 旬	【特別】 カイガラムシ対策	カイガラムシ類 ハダニ類	1. モベントフロアブル 2,000倍(50ml)	7 日 前 ま	3 回以内	500ℓ	1. ウメシロカイガラムシは年によって発生時期が異なるため、発生状況を確認し防除する。 2. 早生種の収穫時期を考慮し、収穫前使用日数を厳守する。 3. モベントフロアブルを使用した場合、同系統のダニゲッターフロアブルは使用しない。 4. モベントフロアブルに替えてトランスフォームフロアブル2,000倍(3日前まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ								

耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、葉液が隅々まで到達しやすいようにする。また、雨よけ栽培では、被覆部分からはみ出す枝もせん除する。
灰 星 病	1. 被害花(果)や被害葉、被害枝は、見つけしだい摘除し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。
褐色せん孔病	1. 早期落葉(8月～9月)した被害葉はできるだけ集め、適切に処分する。
カイガラムシ類	1. 休眠期に、高圧水による洗い流しやブラシがけを行う。 2. 農薬散布にあたっては、散布ムラがないよう丁寧に散布する。

さくらんぼ施肥基準(成木:10a当たり) どちらかの体系を選択する。

●さくらんぼ専用一発肥料体系(省力化労力軽減)

肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
さくらんぼ有機一発80	80～100kg	7月上中旬(収穫後)	9.6～12.0	1.6～2.0	1.6～2.0

●礼肥+基肥体系

作型・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
雨よけテント 600kg (紅秀峰600kg)	燐硝安加里S248 (わかみどり)	10～20kg (紅秀峰:25kg)	7月上中旬(収穫後)	2.0～4.0(5.0)	0.4～0.8(1.0)	0.8～1.6(2.0)
	フレッシュフルーツ有機70	60～80kg (紅秀峰:50kg)	8月中下旬	6.0～8.0(5.0)	3.0～4.0(2.5)	1.2～1.6(1.0)
合 計				8.0～12.0(10.0)	3.4～4.8(3.5)	2.0～3.2(3.0)

おうとう樹脂細菌病予防対策

- 晩秋期(11月以降)のICボルドー66D40倍(-,-)、休眠期の石灰硫黄合剤10倍(発芽前)の散布を欠かさない。
- 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を木質部まで達するように、健全部を含め削り取り、トップジンMペースト(病患部削り取り直後、3回以内)またはパッチレート(病患部削り取り直後・3回以内)を塗布する。
- 適正樹勢の維持に努め、防風ネットを設置する。
- 未結果樹は発芽後から落葉後まで、ICボルドー66Dを主体に、幹にも丁寧に散布する。また、4月中旬～5月上旬にマイコシールド1,500倍(7日前まで、2回以内)を散布してもよい。なお、耐性菌出現防止のため、連用は避ける。

散布時期	適用病虫害	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴																																				
⑥ 6 月 上 旬	灰 星 病	1. パレード15フロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで	2回以内	400ℓ	1. オウトウショウジョウバエの被害果実を確認した場合は直ちに摘み取り処分し、下記を参考に防除を行なう。 2. 収穫にあたっては、樹上に果実を残さないようにするとともに、落果した果実は適切に処分し、園地の清掃を図る。 ●収穫前日まで使用できる殺虫剤(オウトウショウジョウバエ対策)	散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
	オウトウショウジョウバエ	2. スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで	2回以内																																							
	ハダニ類	3. ダニオーテフロアブル 2,000倍(50ml)	前日まで	1回																																							
⑦ 6 月 中 旬	灰 星 病	1. インダーフロアブル 5,000倍 (20ml)	前日まで	2回以内	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
	オウトウショウジョウバエ	2. エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで	3回以内																																							
⑧ 6 月 下 旬	灰 星 病 褐色せん孔病 炭 ぞ 病	1. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
	ショウジョウバエ類	2. アーデントフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで	3回以内																																							
⑨ 7 月 上 旬	灰 星 病 炭 ぞ 病 褐色せん孔病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで	3回以内	400ℓ	3. 「紅秀峰」の収穫が7月中旬まで続く場合、上記殺虫剤のいずれかを散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
	オウトウショウジョウバエ	2. サムコルフロアブル10 2,500倍 (40ml)	前日まで	3回以内																																							
7 月 上 旬 〜 中 旬	灰 星 病 褐色せん孔病 炭 ぞ 病	1. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. 収穫が長引く場合や、降雨が続く場合に散布する。また、収穫後の褐色せん孔病対策として使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
オウトウショウジョウバエ	2. ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで	2回以内																																								
⑩ 隣 接 園 飛 散 注 意 後	褐色せん孔病	1. オキシラン水和剤 600倍(166g)	収穫終了後～ 落葉期まで	3回以内	500ℓ	1. ダニ剤を使用する場合は、4日前までに草刈りを終了する。 2. 褐色せん孔病の発生している園地では、ICボルドー66D40倍(一、一)を散布してもよい。 3. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
	ハダニ類	2. カネマイトフロアブル 1,000倍(100ml)	7日 前 ま で	1回																																							
⑪ 8 月 上 旬 〜 下 旬	褐色せん孔病	1. オキシラン水和剤 600倍(166g)	収穫終了後～ 落葉期まで	3回以内	500ℓ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬 剤 名</th> <th>希釈倍率</th> <th>収 穫 前 使用日数</th> <th>総使用 回 数</th> <th colspan="2">使用時期</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <th>7月</th> <th>8月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダニゲッターフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>前日まで</td> <td>1回</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コロマイト乳剤</td> <td>1,000倍</td> <td>7日前まで</td> <td>1回</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>オマイト水和剤</td> <td>750倍</td> <td>収穫後～落葉期</td> <td>2回以内</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>アカリタッチ乳剤</td> <td>2,000倍 ～3,000倍</td> <td>前日まで</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	薬 剤 名	希釈倍率	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数	使用時期						7月	8月	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○		コロマイト乳剤	1,000倍	7日前まで	1回		○	オマイト水和剤	750倍	収穫後～落葉期	2回以内		○	アカリタッチ乳剤	2,000倍 ～3,000倍	前日まで	—	○	○	散布日 月 日 散布量 ℓ
	薬 剤 名	希釈倍率	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数			使用時期																																				
				7月	8月																																						
ダニゲッターフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○																																							
コロマイト乳剤	1,000倍	7日前まで	1回		○																																						
オマイト水和剤	750倍	収穫後～落葉期	2回以内		○																																						
アカリタッチ乳剤	2,000倍 ～3,000倍	前日まで	—	○	○																																						
ハマキムシ類	2. ダイアジノン水和剤34劇 1,000倍(100g)	14日 前 ま で	2回以内																																								
⑫ 8 月 中 旬		1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍(100ml)			500ℓ	4. ダニゲッターフロアブルは新梢伸長期には新葉に薬害を生じる恐れがあるので注意する。また、開花期の水稻に本剤がかかった場合、穂に薬害を生じる場合があるので、かからないよう注意する。 5. アカリタッチ乳剤は、殺卵効果がないため、5～7日間隔の2回散布か他剤とのローテーションで対応する。 6. 褐色せん孔病の多い園では、クレフノン100倍加用のコサイド3,000 2,000倍(収穫後、一)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
	褐色せん孔病	2. ドキリンフロアブル 800倍(125ml)	収穫終了後～ 落葉期まで	3回以内																																							
	ウメシロカイガラムシ	3. バリアード顆粒水和剤劇 4,000倍 (25g)	前日まで	2回以内																																							
⑬ 9 月 上 旬	褐色せん孔病 樹脂細菌病	1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍(100ml) 2. ICボルドー66D 40倍(2.5kg)	—	—	500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
⑭ 落 葉 後 (11 月 上 旬 〜)	樹脂細菌病	1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍(100ml) 2. ICボルドー66D 40倍(2.5kg)	—	—	400ℓ	1. 幼木及び樹脂細菌病が多い園では必ず散布する。また、石灰硫黄合剤10倍(発芽前、一)を散布してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																				
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> コスカシバ対策 休眠期間中にラビキラー乳剤劇 200倍(落葉後～発芽前(休眠期)、1回)を、落葉後なるべく早い時期に枝幹に散布する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 野そ対策(食害忌避) 根雪直前に、フジワン粒剤(根雪前、2回以内)を200g/樹、幹周り半径約50cm範囲の落葉や雑草を取り除き均一に散らし、レーキ等で表土と混和する。 </div>																																									